



## KC News 再開に際して



代表取締役  
矢作文弘

今年も桜の季節が巡ってきました。咲く前まで今か今かと待っていて、開花予想日を過ぎると一輪、二輪、三輪...

満開だ！と喜び楽しんでいる間もあつという間に過ぎて、チラリ、ホラリと花弁が落ち、花吹雪の舞い落ちる目に鮮やかな光景は、目だけでなく心も惹きつけられるものです。卒業式も終わり、間もなく入学式や入社式の時季、多くの人が新しい門出を迎え、スタートを切ることとなります。幸多かれと応援したい気持ちになります。

弊社においても、今年4月に新卒社員が入社します。これで、3年連続で新卒社員を迎え入れていることとなります。昨年、一昨年に入社した社員は二人とも元気に頑張っており、たのしみもあります。

このような機会にKC NEWSを再発行する運びとなりました。前回は79号(平成24年1月号)で、それからしばらく休止となっていました。今後は休むことなく四季の変化に合わせて年4回は少なくとも発行し続けていきたいと考えています。改めて、継続することの大切さを痛感している次第です。

先日、致知出版社主催の講演会に出席してまいりました。その時の講師の一人である福島智先生のお話は、時間を忘れるほど素晴らしく、心揺さぶられるお話でした。自分の生きる意味を探し、読書を支えに、苦しみや痛みと誠実に向き合ってきた人間であるからこそその深い慈愛と智恵、正直かつ慎ましやかに言葉を紡いでいられる姿勢、すべてが圧倒的な存在感でずっと話を聞いていたいと思いました。その後、先生の著書「ぼくの命は言葉とともにある(9歳で失明、18歳で聴力も失ったぼくが

東大教授となり、考えてきたこと)」を再度購入して読ませていただいたほどです。

「震えるほど強く優しい言葉に打たれ、生かされている私、生かされている今の喜びがこみ上げる命の本」という書評がありましたが、まさにその通りだと思えます。

会社設立四十一周年を過ぎて、社員も二十名を超え、おかげさまで成長しつつあるのを実感できる今日この頃です。一日一日が勝負、今後の成長の明暗の分かれ目であるとやっとなわりかけている今日この頃でもあります。社員・家族の安心と共に今後も成長を続けていけるよう心がけてまいりたいと思います。どうぞ今後共ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

## 葛西建設株式会社 一回生の感慨

一級建築士  
深谷 泰資

私は、葛西建設創業メンバーの1人ですが、2年前に一線を退き、細々と現役の人たちの手助けになる程の仕事の仕事をしております。この度、KCニュース再発行とのことで、現在の生活ぶりを紹介したいと思います。葛西建設創業間もない昭和50年に私の第一子の娘が誕生し、その娘の子供たちは、今年10歳と9歳を迎え小学校に通っています。

私は、毎週火曜日の放課後に江戸川区の総合体育館の体操教室へ、孫達を送り迎えしています。思えば、あつという間に40数年が経ちましたが、我が子とは接することがないほど仕事に追われていた日々の罪滅ぼしとして、孫へお返しする日々を送っています。



前回のKC News発行以降に新卒社員として入社した木村・佐々木の2名を紹介します！

## 2014年入社

工事部  
木村恵一

初めましての方がいると思うので、ご挨拶をしたいと思います。

私は、工事部の木村恵一と申します。入社して2年が経とうとしています。この2年間は、字では語れないほど色々な事がありました。

入社して1年目は、高校で勉強してきたとはいえ、ほとんどの事がわからない事ばかりでした。が、先輩方が優しく教えて下さったので、1年目を乗り越える事が出来ました。

そして2年目は、結構大きい新築の現場につかしてもらいました。この現場は、初めて最初から最後まで居た現場でした。職人さんの段取りや、現場全体を動かしていたのは上司でしたが、現場にずっと居られたで、現場の流れなどがわかったような気がしました。そのあとも、木造の現場や、外壁の改修工事などを、見させてもらいました。とても勉強になった一年間でした。

そして今年の4月から3年目になります。これまで新築工事や耐震、改修工事など色々な現場を見てきましたので、これまでの現場で培ってきた事を生かして頑張りたいと思います。

## 2015年入社

工事部  
佐々木敦也

去年の春に入社した佐々木敦也です。

一年間を振り返ると色々な現場がありました。その中でも、船橋藤原三郵便局の工事が大変でした。現場で初めての夏の暑さで慣れない現場仕事の中で墨出しや、砕石敷き、コンクリート打設、近隣への挨拶の仕方や、職人さんのお手伝いなど体験したこともとても大変で印象的でしたが、一番印象に残っていることは、現場の前でおじいさんが倒れてしまい、突然の出来事でどうすればいいか戸惑いはしたが、体が勝手に動いて何度か大丈夫ですかとお声かけしたが、苦しそうだったのですぐに救急車を呼びました。その後、様態がどうなったか心配でしたが、助けたおじいさんの息子さんがお礼を言いに来てくれてとても感謝されました。

現場仕事は慣れなくてとても厳しかったが、助けたお礼で感謝されたことは、とてもうれしかったです。

今自分の担当の一之江名主屋敷の現場でも近隣様への気遣いや配慮ができるのも船橋藤原三郵便局のおかげだと思います。

これからも精一杯仕事の事も覚えて、近隣様の気遣いや配慮も忘れないで、先輩から教わったことも四月から入る新入社員の人に教えていきたいです。

## チャレンジ・ザ・ドリーム



毎年協力させていただいている江戸川区内中学生の職場体験「チャレンジ・ザ・ドリーム」。今年度、当社には、4校(篠崎第二中学校、二ノ江中学校、春江中学校、松江第五中学校)から、10名以上の生徒さん達が体験に來られました。

5日間の間、モデルルームの見学、新設中の保育園や家等の建築現場の見学・軽作業のお手伝い、CAD体験(CADというパソコンのソフトを利用して、設計図を書いてみる)など、いろいろなことを体験していただきますが、断トツに人気の作業がCAD体験です。

当社の一級建築士が、「理想の家を設計してみよう」をテーマに、CADでの設計図の書き方を教えた後、各自思い思いの理想の家(庭にプールが2つある家等)を設計してみます。作成した図面を診断すると、「日当たりが良すぎる部屋と全く日のあたらない部屋があります」「吹き抜けの上に浴室など重いものが入っています」など、当人達が気がつかなかった指摘が入り、「なるほど」と感心してくれているようです。

家は平面ではなく、風通しや日当たりといった周りの環境も含む立体のものなので、難しいですね！

体験後に届いたお礼状には、「昔と今では家の作りや材料が全然違うので面白かった」「設計してみた家を褒めてもらえてうれしかった」「建築業って面白い！」など素直な感想が書かれたお手紙や、「葛西建設新聞」という手書きの新聞を送ってくださった生徒さんもいて、社員一同、心温まる思いでした。来年も楽しみにしております。